

記録報告

茨城県守谷市の住宅に発生したセスジシミの記録

青木 聡和*・柴山 淳・富岡 康浩

イカリ消毒株式会社 開発本部

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 1-12-3

Occurrence of the household lepismatid, *Ctenolepisma lineata pilifera* (Lucas),
in a house in Moriya-city of Ibaraki Prefecture, Japan

Toshikazu AOKI*, Atsushi SHIBAYAMA and Yasuhiro TOMIOKA

Development head office, IKARI Corporation, 1-12-3, Akanehama, Narashino, Chiba 275-0024, Japan

キーワード: セスジシミ, シミ科, 茨城県, 分布, 発生

Key words: *Ctenolepisma lineata*, Lepismatidae, Ibaraki Prefecture, distribution, occurrence

シミ類(シミ亜目: Zygentoma)は、日本に2科8属14種が分布しており、そのうち家屋害虫となるのはすべてシミ科 Lepismatidae で、4属8種が知られている(町田・増本, 2006)。家屋性のシミ類は、不快害虫であると同時に、紙類、衣類、糊、穀粉、乾物などを食害するため、書籍害虫、文化財害虫(山野, 1995; ほか)、繊維害虫(中元, 1995; ほか)、時には食品害虫(町田, 1995; 富岡, 2007)として扱われている。家屋性のシミ類としてはセイヨウシミ *Lepisma saccharina* Linnaeus, ヤマトシミ *Ctenolepisma villosa* (Fabricius), マダラシミ *Thermobia domestica* (Packard) が代表種であるが(町田, 1995), 南西諸島ではオナガシミ *C. longicaudata* Escherich もかなり繁殖しているようである(町田・増本, 2006)。

セスジシミ *C. lineata pilifera* (Lucas) は、汎世界種であるが、わが国では最初に奈良市から、その後、奈良県都祁村、新潟県長岡市、富山県八尾町、東京都足立区、茨城県つくば市で分布が確認されている(町田・増本, 2006)。筆者らは、茨城

県守谷市において、住宅内での本種の発生を確認したので、採集記録および観察結果について報告する。

採集記録

茨城県守谷市の2階建て木造住宅(築15年)で、2009年6月より2階の和室で時々シミを見かけるようになり、10月にはベランダでも多数の個体を確認した。体色は褐色で、触角・尾糸・尾毛が長く、体軸に沿った数条の縞模様、第10腹節背板が三角形であるなどの特徴(伊藤・町田, 2001; 町田・増本, 2006)から、セスジシミ

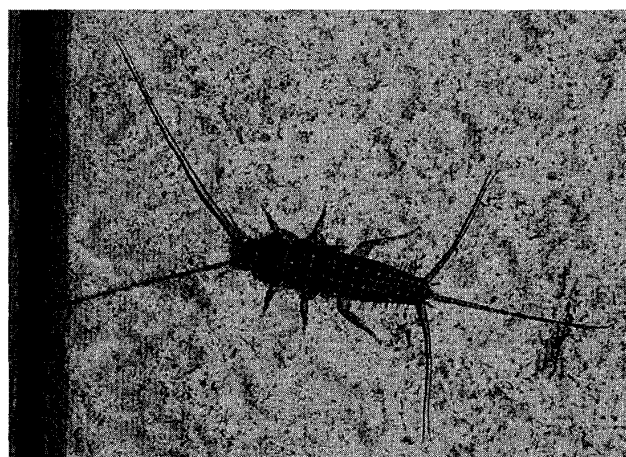


図1. セスジシミ

* Corresponding author: aokin@ikari.co.jp
2009年11月15日受付(Received: 15 November 2009)
2009年12月16日受理(Accepted: 10 December 2009)

と同定された(図1)。採集個体数、採集日、採集場所などのデータを以下に示す。これらのうち9月4日のものは、ゴキブリ用粘着トラップに捕獲されたものであり、それ以外は目視により捕獲したものである。

1ex.	14-VI-2009	2階和室
1ex.	5-VIII-2009	2階和室
1ex.	12-VIII-2009	2階和室
2exs	4-IX-2009	1階台所
1ex.	11-IX-2009	2階和室
1ex.	7-X-2009	2階和室
1ex.	9-X-2009	2階和室
15exs.	9-X-2009	2階ベランダ
7exs	10-X-2009	2階ベランダ

活動期間と活動時間

発生に気づいた6月以降は連続して本種が目撃され、屋外環境に近いベランダで12月6日まで、2階和室では12月15日まで活動が観察された。ベランダでは、気温が10℃以下の時も壁の表面(隙間の外)に出ている個体が目撃された。

10月10日から23日まで、不定期にベランダの手すり壁を2分間目視調査し、調査時刻と目撃個体数を記録した。朝から夕方までは本種は目撃されず18時以降から目撃されるようになった。18時～午前1時まで行った27回の調査によると、特に20時～22時に多くの個体が見られ、一度に10～13頭が目撃された。23時以降は目撃数が少なくなった。

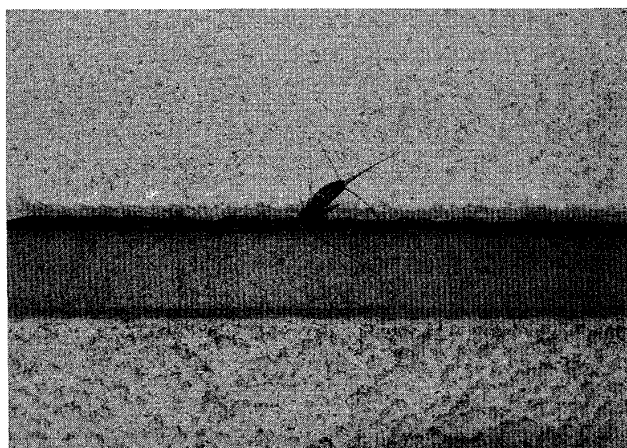


図2. ベランダの壁の隙間に潜る個体

行動と食性

ベランダでは、笠木と手すり壁との隙間、壁にある多くの隙間から出沒した(図2)。和室では敷居と柱との隙間、壁と柱との隙間(図3)、畳の周囲の隙間、鴨居の溝が主な潜伏場所であった。数ミリの隙間に潜伏し、隙間がある周辺を徘徊することが多く、刺激すると近くの隙間にすぐ逃げ込む様子が観察された。

捕獲した個体群に食パンを与えたところ、集まって摂食するのが観察された。その後、水を含ませた脱脂綿、ラット飼料(CE: 日本クレア(株)製)および多数のティッシュペーパーの切片を容器に入れ、本種を飼育したところ、ティッシュペーパーに多数の食痕(図4)が見られた。シミ

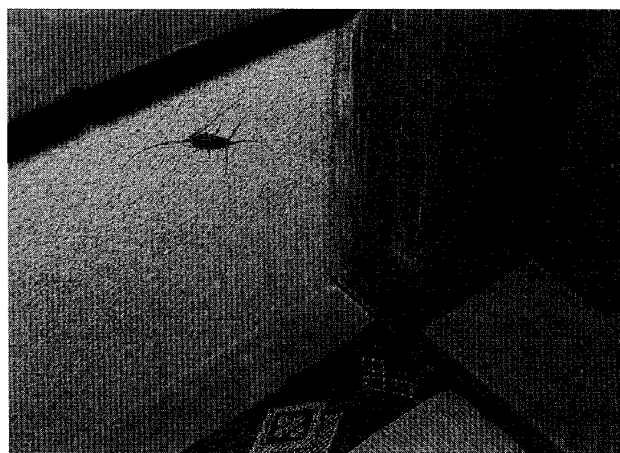


図3. 壁と柱との隙間(潜伏場所)とその付近を徘徊する個体

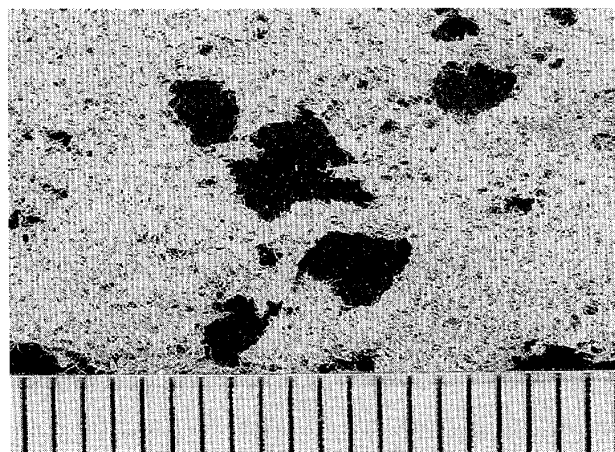


図4. セシジミによるティッシュペーパーの食痕

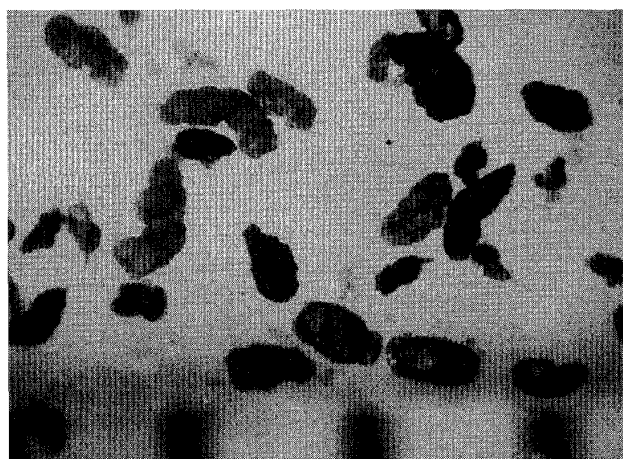


図 5. セスジシミの糞

類は一般には紙に穴をあけるほど食害しない(森, 1984; 町田, 1985)とされるが, ティッシュペーパーでは普通に穴をあけて摂食した。また紙の表面には多数の糞が付着していた。糞は, 灰白色~黒褐色で, 長さ 0.5 mm 内外の長い俵型で, 一方の端が突起状に尖る傾向にあるが, それを欠くものや複数が連続して曲がっているものなども混在しており(図 5), セイヨウシミの糞の特徴(森, 1984)に類似していた。

セスジシミはセイヨウシミやヤマトシミに比べると家屋害虫としてはあまり馴染みの少ない種類であるが, 一般の住宅で発生して同様な被害を与

えるものと思われる。分布に関する報告は現在のところ少ないが, 町田・増本(2006)によると「分布を広げているようである」と記されており, 今後各地で本種の発生や被害が増える可能性が高いと思われる。

引用文献

- 伊藤修四郎・町田龍一郎(2001) シミ目. 原色ペストコントロール図説(日本ペストコントロール協会編), 第 V 集. pp. 103-120. 井上書院, 東京.
- 町田龍一郎(1985) シミ目. 生物大図鑑 昆虫 I, pp. 116, 世界文化社, 東京.
- 町田龍一郎(1995) シミ. 家屋害虫事典(日本家屋害虫学会編). pp. 102-104. 井上書院, 東京.
- 町田龍一郎・増本三香(2006) 日本産家屋性シミ目の同定法. 家屋害虫 27(2): 73-76.
- 森 八郎(1984) 書籍害虫, 書庫内で採集される昆虫ならびにその代表的食痕・虫糞と防除対策. 家屋害虫(日本家屋害虫学会編). pp. 93-111. 井上書院, 東京.
- 中元直吉(1995) 繊維害虫. 家屋害虫事典(日本家屋害虫学会編). pp. 39-44. 井上書院, 東京.
- 富岡康浩(2007) シミ類. 有害生物防除事典(谷川力編). pp. 47-48. オーム社, 東京.
- 山野勝次(1995) 書籍害虫. 家屋害虫事典(日本家屋害虫学会編). pp. 54-58. 井上書院, 東京.
- 山野勝次(1995) 文化財害虫. 家屋害虫事典(日本家屋害虫学会編). pp. 59-68. 井上書院, 東京.
- 安富和男・梅谷献二(1986) 衛生害虫と衣食住の害虫. 310 pp. 全国農村教育協会, 東京.